

## インド金融政策（2019年8月）

RBI（インド準備銀行）は4会合連続で政策金利を引き下げ

2019年8月8日

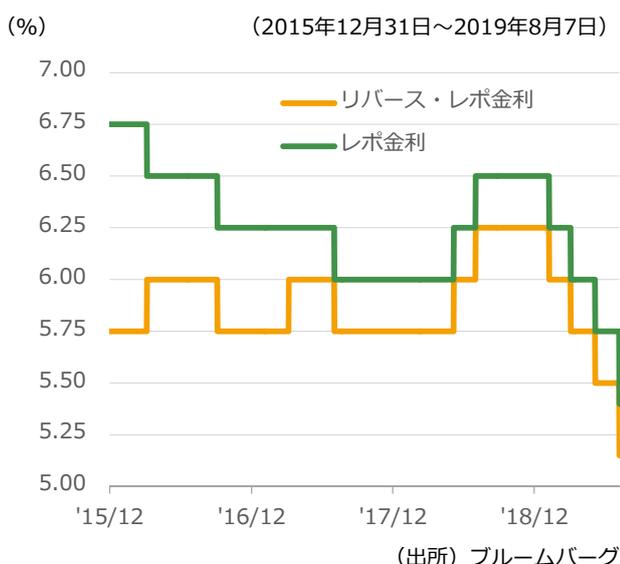
### RBIは金融緩和姿勢を維持

2019年8月7日（現地）に開催された金融政策委員会において、RBI（インド準備銀行）は政策金利であるレポ金利を0.35%ポイント引き下げ、5.40%にすることを決定しました。また、リバース・レポ金利も0.35%ポイント引き下げ、5.15%にしました。利下げは市場でおおむね予想されていましたが、調整幅が従来の0.25%ポイントの倍数でなかったことはサプライズとなりました。もっとも、ダス総裁は4月時点で、政策金利の調整幅として0.25%ポイントにこだわらない姿勢を示しており、今回の会合でも委員6名のうち、ダス総裁を含む4名が0.35%ポイントの引き下げを主張していました。

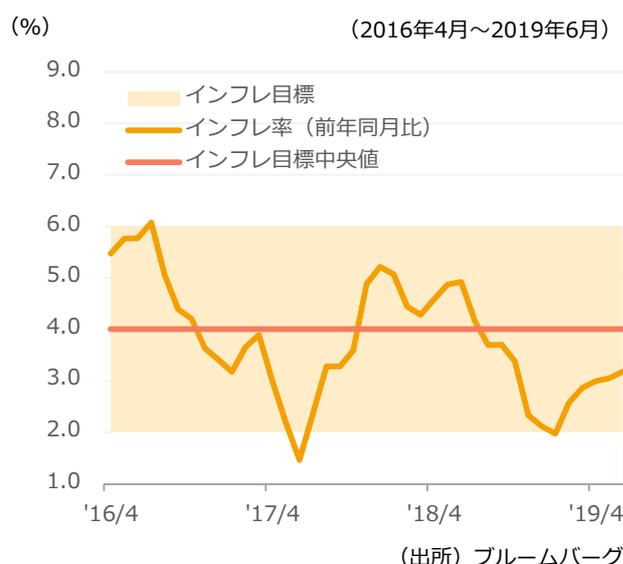
RBIは声明文の中で、6月の会合以降、通商面での緊張や地政学的な不透明感が増大していることや、先進国から新興国まで経済活動が減速していることに言及し、インドの2019年4月から2020年3月にかけての経済成長率見通しを6月時点の7.0%から6.9%に下方修正しました。RBIはこれらを背景に、金融面からインド経済を支援するため利下げを継続し、また利下げ幅を直近3回の0.25%ポイントから拡大することにより、金融緩和を強化する姿勢を見せたと言えます。

先行きについて、RBIは緩和的な金融政策スタンスを維持しました。インドのインフレ率がRBIのインフレ目標の中心値である+4%を継続的に下回っていることや足元で利下げに踏み切る国が相次ぐ環境下で、RBIは次回10月の会合でも利下げを実施する可能性があります。足元の世界的な金融市場の混乱はインド・ルピー安要因になるとみていますが、株式・債券市場については、追加利下げ観測が資産価格の上昇を後押しすると期待されます。

#### 政策金利の推移



#### インフレ率の推移



#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。